

0.1 H21 数学 A

□ (1)

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{f\left(\frac{1}{n}\right) - f(0)}{\frac{1}{n} - 0} = \lim_{n \rightarrow \infty} nf\left(\frac{1}{n}\right) = f'(0)$$

であるから $-f'(0)/2 > 0$ に対してある $N \in \mathbb{N}$ が存在して $n > N$ なら $nf(\frac{1}{n}) < f'(0) + (-f'(0)/2) = f'(0)/2$ である。

(2) $\pi > x > 0$ で $\frac{1}{1+x} < 1$ より $\log(1+x) = \int_0^1 \frac{1}{1+t} dt < \int_0^1 1 dt = t$ である。したがって $\log(1+x) < x$ である。またテイラーの定理から $\cos x = 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{4!} + R(x)$ である。 $R(x) = \frac{(\cos^{(5)} s)}{5!} x^5$ ($0 < s < x < \pi$) である。 $(\cos^{(5)} s) = -\sin s < 0$ であるから $R(x) < 0$ である。したがって $\cos x < 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{4!}$ である。

以上より

$$\log\left(\cos\left(\frac{1}{\sqrt{n}}\right)\right) \leq \log\left(1 - \frac{1}{2n} + \frac{1}{24n^2}\right) \leq -\frac{1}{2n} + \frac{1}{24n^2} < -\frac{1}{n}$$

であるから発散する。

□ (1) 略

(2) $\sigma(u) = u - 2\frac{(u,u)}{(u,u)}u = -u$ より -1 は固有値である。 $\sigma(x) = -x$ とすると、 $x - 2\frac{(x,u)}{(u,u)}u = -x$ であるから $x = \frac{(x,u)}{(u,u)}u$ である。すなわち $x \in \text{span}(u)$ である。よって $W(-1) = \text{span}(u)$ である。

(3) $\sigma \circ f(u) = f \circ \sigma(u) = f(-u) = -f(u)$ であるから $f(u) \in W(-1) = \text{span}(u)$ である。したがって u は f の固有ベクトルである。

(4) $\sigma(e_1) = e_1 - 2\frac{(e_1,u)}{(u,u)}u = e_1 - \frac{2}{3}u = \frac{1}{3}e_1 + \frac{2}{3}e_3 - \frac{2}{3}e_4$, $\sigma(e_2) = e_2$, $\sigma(e_3) = e_3 + \frac{2}{3}u = \frac{2}{3}e_1 + \frac{1}{3}e_3 + \frac{2}{3}e_4$, $\sigma(e_4) = e_4 - \frac{2}{3}u = -\frac{2}{3}e_1 + \frac{2}{3}e_3 + \frac{1}{3}e_4$ である。よって表現行列は
$$\begin{pmatrix} \frac{1}{3} & 0 & \frac{2}{3} & -\frac{2}{3} \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ \frac{2}{3} & 0 & \frac{1}{3} & \frac{2}{3} \\ -\frac{2}{3} & 0 & \frac{2}{3} & \frac{1}{3} \end{pmatrix}$$
 である。

□ (1) ハウスドルフ空間 (X, \mathcal{O}) のコンパクト部分集合 C をとる。 $y \in X \setminus C$ と $x \in C$ について $x \in U_x, y \in V_x, U_x \cap V_x = \emptyset$ となる開集合 $U_x, V_x \in \mathcal{O}$ が存在する。 $\bigcup_{x \in C} U_x \supset C$ より有限部分集合 $X' \subset X$ が存在して $\bigcup_{x \in X'} U_x \supset C$ である。 $V = \bigcap_{x \in X'} V_x$ とすれば V は y の開近傍で $V \cap C = \emptyset$ である。したがって $X \setminus C$ は開集合である。

(2) $f: X \times Y \rightarrow \mathbb{R}; (x, y) \mapsto x - y$ とすると f は連続である。よって $f^{-1}(0) = F$ は閉集合である。 $g: F \rightarrow \mathbb{R}; (x, x) \mapsto x$ とすると g は連続である。 $\sup g(x) = 1$ より g は最大値をもたない。したがって F はコンパクトでない。

□ (1) $zx + iy$ とする。 $e^z = -e^{-z}$ より $e^x = |e^z| = |-e^{-z}| = e^{-x}$ であるから $x = -x$ である。したがって $x = 0$ である。 $e^{iy} = -e^{-iy}$ より $\cos y = -\cos y$ である。よって $y = \frac{i\pi}{2} + n\pi$ ($n \in \mathbb{Z}$) である。

(2) $|e^{-iz}| = |e^{s-i\pm R}| = e^s \leq e^\pi$ である。 $z = R + is$ のとき $|e^z + e^{-z}| \geq |e^z| - |e^{-z}| = e^R - e^{-R}$ であり、 $z = -R + is$ のとき $|e^z + e^{-z}| \geq |e^{-z}| - |e^z| = e^R - e^{-R}$ である。よって $\sup_{z \in \Gamma_R} |e^{-iz}/(e^z + e^{-z})| \leq \frac{e^\pi}{e^R - e^{-R}}$ である。

(3) $f(z) = e^{-iz}/(e^z + e^{-z})$ とする。(1) で求めた点以外で f は正則である。したがって積分経路 C を 4 点 $-R, R, R + i\pi, -R + i\pi$ を結んでできる長方形を反時計回りに進むとすると、留数定理から $\int_C f(z)dz = 2\pi i(\text{Res}(f, i\pi/2))$ である。 $\lim_{z \rightarrow i\pi/2} \frac{z - 1\pi/2}{e^z + e^{-z}} = \lim_{z \rightarrow i\pi/2} \frac{1}{e^z - e^{-z}} = \frac{1}{2i}$ であるから $\int_C f(z)dz = \pi e^{\pi/2}$ である。

また

$$\begin{aligned}\int_{R+i\pi}^{-R+i\pi} f(z)dz &= \int_R^{-R} \frac{e^{-i(x+i\pi)}}{e^{x+i\pi} + e^{-x-i\pi}} dx = \int_{-R}^R \frac{e^{\pi} e^{-ix}}{e^x + e^{-x}} dx \\ \left| \int_R^{R+i\pi} f(z)dz \right| &\leq \int_R^{R+i\pi} \left| \frac{e^{-iz}}{e^z + e^{-z}} \right| dz \leq \pi e^{\pi} / (e^R - e^{-R}) \rightarrow 0 \quad (R \rightarrow \infty) \\ \left| \int_{-R+i\pi}^{-R} f(z)dz \right| &\leq \int_{-R+i\pi}^{-R} \left| \frac{e^{-iz}}{e^z + e^{-z}} \right| dz \leq \pi e^{\pi} / (e^R - e^{-R}) \rightarrow 0 \quad (R \rightarrow \infty)\end{aligned}$$

である. よって $\pi e^{\pi/2} = \int_{-\infty}^{\infty} \cos x / (e^x + e^{-x}) dx + e^{\pi} \int_{-\infty}^{\infty} e^{-ix} / (e^x + e^{-x}) dx$ である. よって $\int_{-\infty}^{\infty} \cos x / (e^x + e^{-x}) dx = \frac{\pi}{e^{\pi/2} + e^{-\pi/2}}$ である.